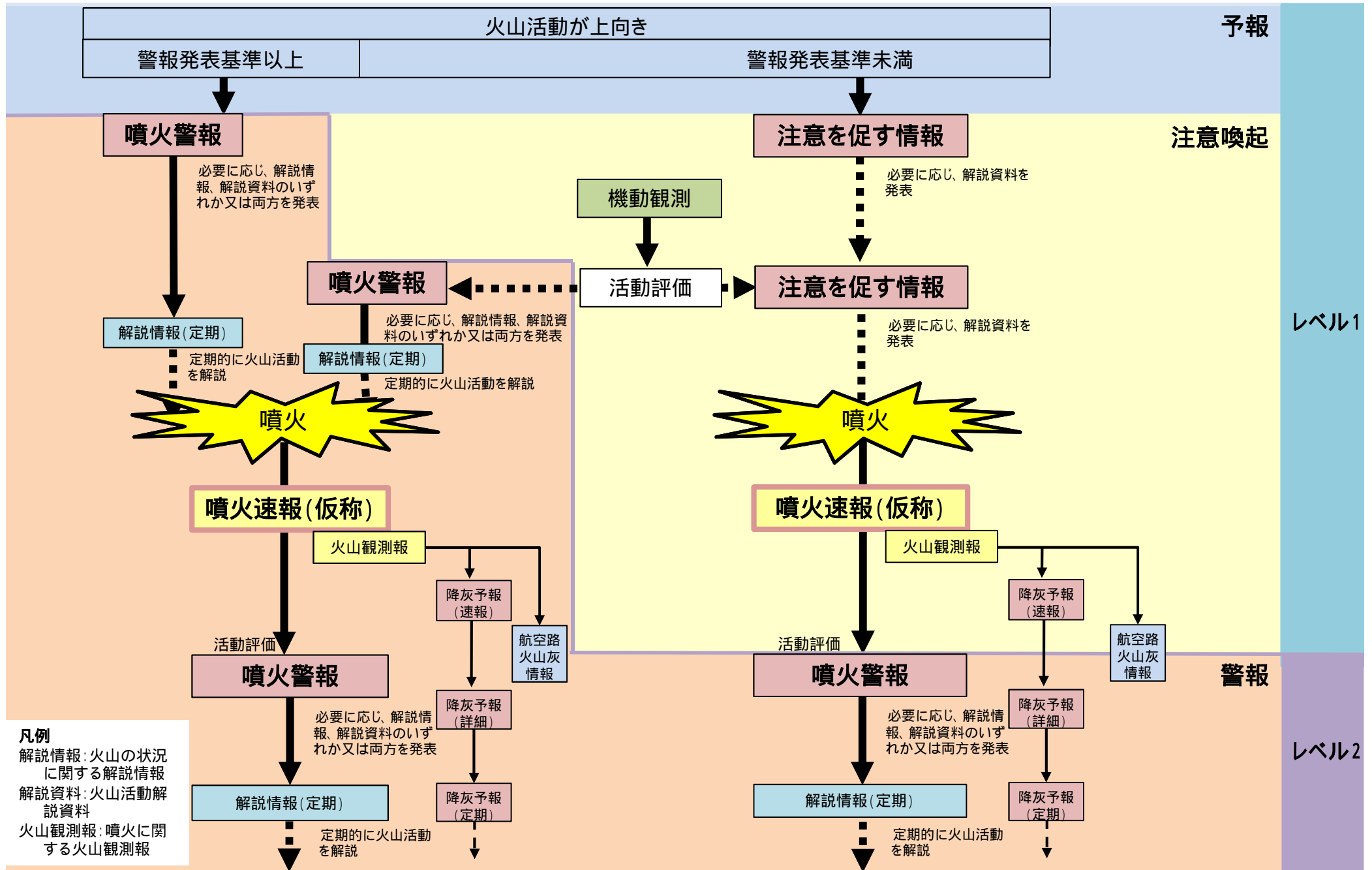


レベル1における火山活動の変化を 登山者等に注意喚起する情報について

- 火山噴火の予測は困難であるため、噴火警報の発表基準に満たないような変化であっても、火山活動が上向きである場合には活動が活発化している旨を注意喚起することが、特に火山に立ち入る人々にとって必要と考えられる。
- これまで気象庁は、警報の発表まで至らない火山活動の変化があった場合には、「火山の状況に関する解説情報(以下、解説情報)」等の情報を発表し、注意喚起を実施してきた。
- しかし、解説情報では、情報名が注意喚起をしていることを示すものとはなっていないこと、解説情報は定期的に発表されている情報でもあり注意喚起のために臨時で発表する情報であることを即時に識別することが困難であるとの指摘があり、改善する必要があると考えられる。
- このことを踏まえ、効果的に注意喚起を示す情報を新たに創設することが必要ではないか。

レベル1における火山活動が上向きの場合の情報発表の流れ



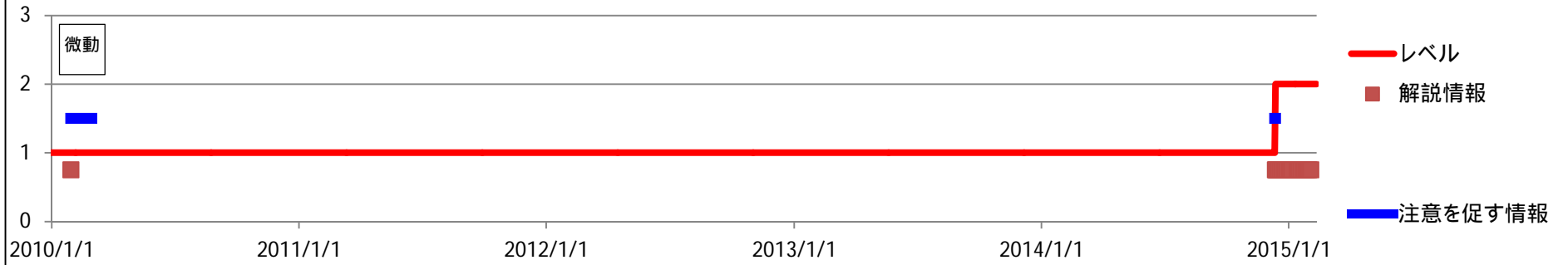
注意を促す情報の発表頻度

注意を促す情報の発表タイミングを、地震多発等による臨時的の火山の状況に関する解説情報の発表時と想定した場合の各火山における発表頻度を調査した。

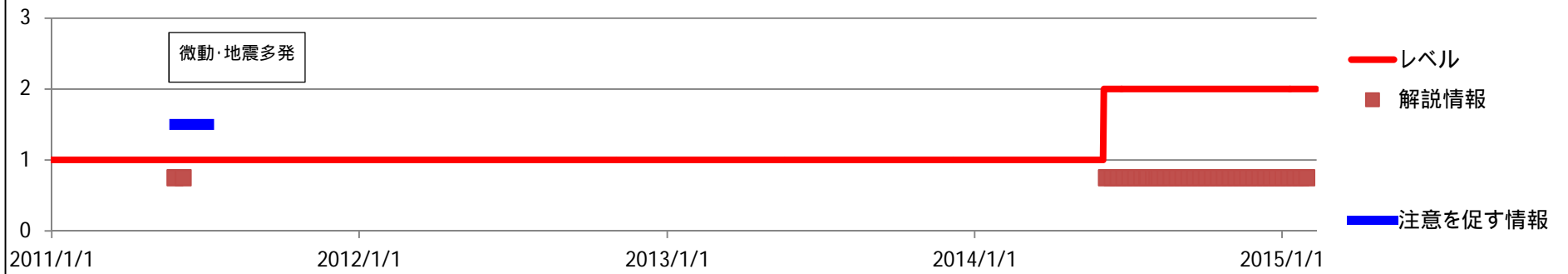


グラフ中の「解説情報」は「火山の状況に関する解説情報」をさす。
注意を促す情報(■)の期間は、解説情報発表後1ヶ月間にしている。以降同じ。

吾妻山



草津白根山



御嶽山

